

京都外国語大学 現代G Pフォーラム
官学連携による観光振興 ～多言語で京都を発信する～

日時：2007年（平成19年）3月17日（土）13：30～16：30

場所：キャンパスプラザ京都 第2講義室

後援：京都市、（社）京都経済同友会、（株）京都新聞社、（財）大学コンソーシアム京都

参加者数：85名

開催報告：

京都外国語大学は、平成16年度文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）」に「官学連携による観光振興 - 多言語で京都を発信する - 」で選定され、学内外において様々な事業に取り組んできました。そこで、これまで取り組んできた事業を総括し、「京都情報の発信 ～京都観光振興へ向けての提言～」と題したシンポジウムを開催しました。

第1部では、「京都情報の発信 ～京都観光振興へ向けての提言～」と題して、国際日本文化研究センター教授 井上章一先生に基調講演をしていただきました。また、これまで本学が取り組んできました京都研究プロジェクトに関する報告をしました。

第2部では、「京都情報の発信 ～京都観光振興へ向けての提言～」と題して、パネルディスカッションを行います。パネリストは、井上章一先生（国際日本文化研究センター教授）、西村健吾氏（京都市産業観光局観光部観光振興課国際事業担当課長）および畑正高氏（株式会社松榮堂代表取締役社長）で、産官学が連携して、京都観光振興に向けての提言をまとめました。

今回のG Pフォーラムを通して、国際観光都市・京都の海外における認知度や外国人の日本文化の捉え方について、市民に広く理解してもらうことができました。また、本取組は京都市と官学連携で観光振興を行うものであるが、行政の役割、地域の大学の役割、産業界の役割、受け入れる市民の役割について、パネルディスカッションや質疑応答を通して、参加していただいた方々と共通の認識がもて、今後さらなる観光振興を図るには、産業界の役割も大きく、伝統産業の海外発信など産官学上げての取組に発展させる必要性について提言をまとめることができました。

本補助事業を通して、地域の外国語大学としての社会的役割を明確に示すことができ、そして何よりも学生の主体性を尊重し、「学びを活かせる場」の提供により、学生は「学び」の社会的使命を自覚させ、地域貢献活動に参加するやりがいと喜びの体験させることができたことは、大きな成果でした。また、今回のフォーラムで本取組を官学から産官学の連携へと発展させる指針が立てられたことも、今後の事業を展開する上で大きな意味を持つものでした。

シンポジウム 「京都情報の発信 ～京都観光振興へ向けての提言～」

13：00～ 開場・受付

13：30～13：40 シンポジウム開会挨拶

佐々木伸一（同プログラムコーディネーター・京都外国語大学外国語学部教授）

13：40～14：30 第1部 井上氏 基調講演基調講演：

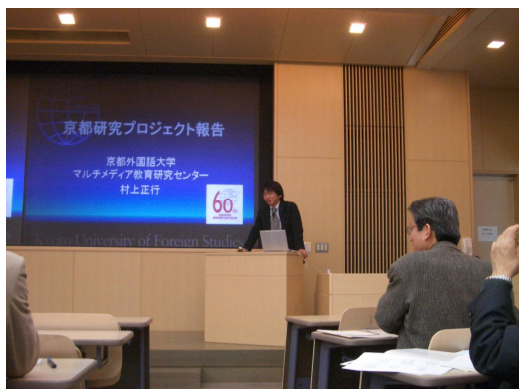
講演タイトル：「京都情報の発信 ～京都観光振興へ向けての提言～」

井上章一 氏（国際日本文化研究センター教授）



14：30～14：50 京都研究プロジェクト報告

報告者：村上正行（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター講師）



14:50~15:10 休憩

15:10~16:10 第2部 パネルディスカッション

司 会：平山 弓月（同プログラムコーディネーター・京都外国語大学外国語学部教授）

パネリスト：

1. 井上 章一 氏（国際日本文化研究センター教授）
2. 西村 健吾 氏（京都市産業観光局観光部観光振興課国際事業担当課長）
3. 畑 正高 氏（株式会社松榮堂代表取締役）



16:10~16:30 質疑応答

16:30 閉会挨拶